

広報から変えていく

国際協力と日本の社会をつなぐ経験、技術、メッセージ



< 2001年度NGO研究会 >

- 長谷川聡：NPO法人「飛んでけ!車いす」の会
菊地 豊：沙漠植林ボランティア協会
河内伸介：アフリカ日本協議会
高田正隆：特定非営利活動法人アパナック
森 透：ASPBラオスの子どもに絵本を送る会
矢野等子：地球環境平和財団(FGPE)
信澤健夫：特定非営利活動法人BHNテレコム支援協議会
相川政夫：特定非営利活動法人ラブ・グリーン・ジャパン(L.G.J.)
高瀬一使徒：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
川島康治：TFSR Japan・自立のための道具の会
榛木恵子：関西NGO協議会
金子康紀：特定非営利活動法人国際協力アカデミーひろしま
角 正信：NGO福岡ネットワーク
池間哲郎：NGO沖縄アジアチャイルドサポート

c・o・n・t・e・n・t・s



1. NGOの可能性、広報の力

1-1 広報を変える。広報から変えていく	2
1-2 NGOへの声を聞く	4
1-3 ところで、NGOって何ですか	7

2. 広報は何のため?

2-1 【check】あなたの団体にとって広報とは?	13
2-2 [大規模NGOの事例] 募金活動のために / 高瀬一使徒	14
2-3 [小規模NGOの事例] 広報は、参加への動機づけ / 長谷川聡	16
2-4 [提言型小規模NGOの事例] 広報とは、活動そのもの / 河内伸介	20
2-5 [中規模NGOの事例] 広報の強化に取り組む / 信澤健夫	22
2-6 [大規模団体の事例] 不況でも、個人寄付は大きく伸びる / 森透	25

3. アピールできていますか

3-1 【check】ニュースレターを採点する	27
3-2 人々のニーズから考える / 金子康紀	28
3-3 広報ツールは上手に使い分けて効果的に / 矢野等子	32
3-4 「道具の会」ならではの広報の道具 / 川島康治	37
3-5 新聞、テレビで取り上げてもらう法 / 高瀬一使徒	39

4. 信頼性を高めるために

4-1 【check】情報発信のバランスはとれていますか?	41
4-2 団体の運営、説明責任と広報活動 / 高田正隆	42
4-3 NPO法人としての広報、アカウンタビリティ / 高田正隆	44
4-4 言いにくいこと。 / 森透、榛木恵子	47
4-5 プロジェクト地の人々と情報共有しているか / 相川政夫	50
4-6 費用対効果、失敗は広報されているか / 菊地 豊	53

5 .沖縄ライブ2002.02.15/16

- 5-1 【ワークショップ】つながっている?届いている? 57
- 5-2 沖縄、担い手を育てる広報活動 / 池間哲郎 65
- 5-3 北と南の学生が会って感じたこと / 太田こずえ、仲村真由美 70

6 .ネットワーク、連携と広報

- 6-1 NGO界の公用語は? 73
- 6-2 政府との連携：草の根無償資金協力の場合 / 河内伸介 74
- 6-3 政府との情報の共有。共生するシステムへ / 信澤健夫 76
- 6-4 地域の国際協力と広報、他セクターとの連携 / 角 正信 80
- 6-5 NGOからNGOへの情報発信 / 榛木恵子 85

7. メイキング・オブ・NGO研究会

- 7-1 2001年度NGO研究会について / 榛木恵子 88
- 7-2 報告書ができるまで――研究会で話し合ったこと 89
- 7-3 研究会団体概要 / メンバーの「感想を一言」 100

編集：森 透
署名のない原稿は森が書いています。

は じ め に

外務省では、わが国NGOの活動能力、専門性の向上(キャパシティー・ビルディング)に資する支援を行い、わが国NGOが国際的競争力を高め、事業実施面における政府とNGOの連携を促進することを目的として、平成11年度よりNGO活動環境整備支援事業に取り組んでいます。

「NGO研究会」は、この支援事業の一環として、国内各地のNGOから選出された委員が研究会を構成し、わが国NGOが組織強化・活動能力向上を図るために共通の課題となっている問題をテーマとして研究・討議し、その改善に向けた提言を行うプログラムとして、平成11年度には、「財務・会計、人事・労務」、翌12年度においては「NGOのアカウンタビリティ向上を図るための自己評価指標」について研究が行われ、その成果は報告書として広く参考に使われています。

3年目を迎えた平成13年度においては、NGOの活動を支える市民の理解や協力を得ていくため基本的な活動となる「広報」に焦点を充てた研究会が実施されました。ここでは、わが国のNGOが実際に広報にどのように取り組んでいるかを、組織の規模や活動状況も異なる様々な団体の事例・手法を照会し、そこから助言・アドバイスを探っていくという報告書作りが目指されました。

ここに完成した報告書は、何よりも読み手の立場に立ち、また、関心が向くことにも力点を置いた研究会委員一同の力作です。皆様方の活動をアピールし、市民の理解と共感、そして支持・協力を広げていかれるための一助として本報告書をご参考にしていただくことを願って止みません。

平成14年3月
外務省経済協力局
民間援助支援室長
小畑 正比呂